

## 現場の魅力 ～橋の建設について～



極東興和株式会社  
大阪支店 技術部 工事課  
まえだ ゆうき  
**前田 侑輝**

### 「橋」に惹かれて

私がなぜ「橋」を作る仕事をしたいと思っただかというところ、学生時代にPCC箱桁橋の現場見学をさせて頂いた際に橋の側面より望んだ橋のかつこよさや迫力に圧倒され、いつかこのような「橋」を作ってみたいと思いい、橋梁施工を主な事業とする極東興和へ入社しました。

### 初めての現場

初めて赴任した現場は入社前に見学した橋と同じ構造形式の片持架設工法によるPCC箱桁橋でした。

片持架設工法は橋脚上の柱頭部から移動作業車を使用し、左右へ2～4m毎に張り出しながらバランスを取って上空で橋桁を製作していく施工方法です。現場での作業は、「測量↓型枠セット↓鉄筋組立↓コンクリート打設↓PCC鋼材緊張↓移動作業車前進」の施工サイクルを繰り返すもので、私はひとつの橋脚を担当しました。忙しい毎日で上司にも苦労をかけた

したが、無事に橋が繋がった時には言葉には言い表せないくらいの達成感を感じると同時に、この経験が自分の自信に繋がりました。

### 現在の仕事

現在の仕事は、福井県敦賀市の北陸新幹線工事（JV工事）の監理技術者として、施工計画の立案や工程管理、原価管理および発注者との協議等を行っています。工事延長が長く（約2.7km）、橋梁の基礎工事と上下部工事、トンネル工事等、多くの工種が含まれ、これらをわずか4年半で施工する必要がありました。そのため、新幹線の開通時期を守るべく、工程管理が主な課題でした。橋梁上部工は、片持架設工法や大型クレーンを使つての桁架設を行う工事があり、片持架設工法では超大型の移動作業車を使用して（最大施工長6m）施工ブロックを10ブロックから6ブロックに減少させ、また、桁架設工事では現場製作の橋桁を工場製作のセグメント桁へ変更することで、工程を短縮しました。本事業の完工により、東京～福井間の所要時間が約20分短縮でき、私の仕事は社会貢献の一助となると考えています。

### 現場の魅力

いろんな現場経験を積んで、施工管理の仕事の良い所は「やりがい」こ

れに尽きると思います。何もないとこに橋を架け、通れるようになることは達成感や喜びを感じられ、自分の作った橋を車や電車を通る際、家族や友達に鼻高々に自慢することができます。

また、協力業者の方々から「現場やりやすかった、また仕事しようね」等言われることもやりがいのひとつです。現場監督の仕事は、現場に携わる多くの職員や職人、関係者一人ひとりの「仕事」を繋ぎ、最終的に構造物を作りあげる「仕事」です。全体をひとつにまとめるのは大変ですが、こうしてできあがった「橋」はより一層格好良く見え、愛情が湧いてきます。真心こめて作った「橋」が何十年と利用され、人々の心に少しでも残ってくれば嬉しいのです。

### 子どもの誕生

去年子どもが生まれ、現在7カ月の男の子です。生まれたばかりと違い、動き回る姿を見て「成長が早いなあ」と実感しています。週末は、妻と息子と近くの公園や水族館等遊びに出かけることが多いです。インドア派の私と妻でしたが、息子誕生後は外に出るようになっていきます（笑）。子どもが大きくなつたら、私が携わつた橋の自慢話をし、「パパ凄いわね」って言ってもらえるように、今後も頑張っていきたいと思っています。



▲公園にて家族と散歩



▲現在の現場



▲初めての現場

# #006 仕事場拝見

## 活躍のフィールドを広げる



三井住友建設株式会社  
東京土木支店土木部  
やま さき な な  
**山崎 菜那**

### きつかけは単純

現場で働いていると建設業界に就職した理由を聞かれることがあります。私が建設業界を選んだ理由は、「スケールが大きく、多くの人の役に立つモノ（インフラ）をつくりたい」という単純な思いからでした。何か特別なきつかけがあったわけではありませんが、土木分野に関心を持ち始めた高校生の時に「この家は私がつくった」というより、「この道は私がつくった」という方がかっこいいと思ったのがきっかけと言えるかもしれません。我ながらすごく単純な理由だと思えますが、だからこそ日々現場で働くことにやりがいや喜びを感じるとともに、建設業の仕事に誇りを持っています。

### 初めての現場代理人とコンポ桁橋

現在は埼玉県三郷市で、PC4径間連結コンポ桁橋の現場に従事しています。今までいくつかのPC橋梁の現場に従事してきましたが、当現場では初めて現場代理人として従事しています。コ

ンポ桁橋のクレーン架設は初めての経験なので、施工上の細かい計画は日々勉強しながら進めています。また、現場の施工管理に加え、発注者との打合せや書類の作成、発注者主催の見学会の調整や対応も行っています。

現在施工中のこの橋梁は、周辺の大規模商業施設や物流・生産施設の進出による急速な交通需要の高まりや、江戸川に架かる橋梁の慢性的な交通渋滞の対策事業の一環です。現場が江戸川沿いの堤防から見晴らしが良いこともあり、地元の方々からの関心も非常に高く、堤防を歩いていると声を掛けられることがしばしばあります。

主桁は450tクレーン2台を使用しての相吊りで架設しました。周りを見渡すと、散歩の足を止めて架設を眺めている人や住宅の敷地内から動画を撮っている人がおり、多くの方々の関心を得ていることを実感しました。それと同時に失敗は許されないという責任感を強く持ちました。

### 転勤の楽しみ

これまで現場異動のタイミングでさまざまな場所に引越しをしてきましたが、どの土地も住めば都だと感じました。休日はその土地の名所や観光地に足を運ぶことに忙しかったほどです。静岡県にいた時は富士山の世界遺産を巡り、福島県にいた時は自分の車で東北6県制覇したいと思いつき、岩手県の中尊

寺から青森県、秋田県をまたぐ白神山へ行きました。しかし、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、旅行や人混みを避けなければいけなくなりました。そんな中でもなにか始められないかという思いからゴルフを始め、最近ではゴルフにのめり込んでいます。

### モノづくりの最前線で働く喜びを伝えたい

モノづくりの仕事に就きたい一心で就職し、今まで土木の現場に従事してきました。現場で働くたびに、現場はさまざまな分野の人に支えられていると気付かされ、モノづくりの最前線で働くことに喜びと感謝の気持ちを感じる毎日です。

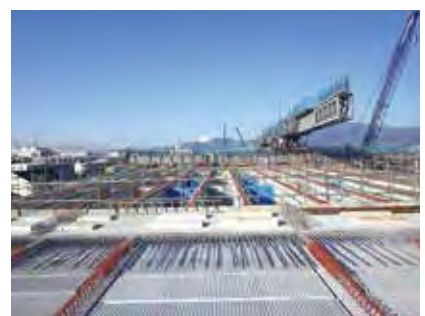
私が入社した当時は、女性技術者はまだまだ珍しかったですが、社内での女性技術者は年々増加しています。また協力業者や同業他社の女性技術者の話を聞くことも確実に増えてきました。多様性のある社会や女性活躍社会という言葉が頻りに耳にするようになり、建設業界においても女性が活躍できるフィールドが着実に整えられつつあると思います。男性女性を問わず、建設業界に興味があり、これから働いてみたい方々にモノづくりの仕事の魅力を知ってもらい働いて実感してもらえようように、私自身これからも現場時には現場を支える側として邁進していこうと思います。



▲休日(ゴルフ)



▲現在の現場(架設状況)



▲初めての現場(施工中)

## 建設に携わる魅力



大成建設株式会社  
土木設計部橋梁設計室

しんじょう こうへい  
**新庄 皓平**

### はじめに

私はものづくり、特に構造物に興味があり、大学では土木工学の道に進みました。橋梁工学を専攻し、実験をメインとした研究を行いました。これらを通じて、より一層、構造物の建設に携わりたいと思うようになりました。そのため、建設工事に直接的に携わることができるとゼネコンを中心に就職活動し、当社に入社しました。

### これまでの仕事

入社後は縁あつて大学時代の専攻と同じ、橋梁の設計の部署に配属されました。入社まではPC（プレストレストコンクリート）構造に接することが少なく、初めてのことが多かったことも有り、勉強の日々でした。

入社3年目に初めての現場配属になりました。この現場はエクストラードード橋と呼ばれる、斜張橋に似た構造の橋梁を鉄道の営業線の上空に

建設する工事でした。本現場は世界初の工法・構造を採用したり、特に高度な安全管理を実施するなど、大変な思いもたくさんしましたが、いざ橋が出来上がるとその達成感は大きく、それまでの苦労も吹き飛びました。また、設計部署で本橋の設計に携わっており、自身が設計したものを現場で構築するという貴重な経験を積むことができました。

次の現場勤務も同じく橋梁の建設現場でした。工程の制約が特に厳しい工事でしたが、綿密な施工計画を立て、協力業者と密接にコミュニケーションを取り、着実に工事を進めていくことで、目標工期を達成することができました。最初の現場では右も左もわからず、仕事に追われてばかりでしたが、ここでの経験を生かして現場運営をすることができ、自身の成長を感じることができました。

### 現在の仕事とこれから

現在は再び橋梁の設計部署に戻ってきています。これまでは新たに建設する橋梁の設計・施工に携わってききましたが、少し変わって橋梁の架け替え工事の設計検討を行っています。

橋梁の形式にはさまざまなものがあり、橋梁のライフサイクルにも新設、補修、更新といったさまざまなものがあります。そのため、今年で入社

10年目になりますが、橋梁という同じ構造物を対象としていても、全てを理解するには程遠く、毎日新しい事柄に触れ、常に成長できる環境だと感じています。

建設業界はこれまで長時間勤務が当たり前でしたが、それを払拭すべく、働き方改革に力が入られています。また、環境問題への取組みもより積極的に進んでいます。そのような状況の中で新たな技術やこれまでになかった考え方が登場し、業界が大きく変わろうとしています。それらに常にアンテナを張り、波に乗り遅れないように、日々頑張りたいと思います。

### 最後に

現在はコロナ禍ということもあり、家で妻と一緒にのんびりと過ごしています。これはこれで楽しいのですが、コロナ感染症のまん延も収まり、気兼ねなく外出して、遊ぶことができる日常が戻ることを待ち望んでいます。

これまで建設業に携わってきて、苦勞することも多いですが、それ以上に自分が携わった構造物を前にすると、苦勞はいい思い出に変わり、達成感、充実感を強く感じる事ができました。これからこの業界に飛び込んでいただけた方にも是非この経験をさせていただきたいと思えます。



▲ 2つ目の現場



▲ 最初の現場(施工完了)



▲ 最初の現場(施工中)